

# 台湾基督長老教会との協約を承認

## 日本キリスト教団・第23回総会

### 「教師検定」で騒然

### 傍聴者の発言で議事停滯

日本キリスト教団の第二十三回総会が、十一月十二日から同十四日まで、神奈川県箱根の小涌園で開かれた。同総会には全国から約三百人の議員と約九十人の准議員が参加、六十八の議案と六つの建議が審議され、議長、副議長、常議員の選出のほか、台湾基督長老教会との協約などが承認された。中でも、沖繩キリスト教団との合同の承認と、台湾基督長老教会との協約などが承認された。中でも、沖繩キリスト教団との合同の承認と、台湾基督長老教会との協約などが承認された。中でも、沖繩キリスト教団との合同の承認と、台湾基督長老教会との協約などが承認された。

### 沖繩キリスト教団との合同 創立記念日、教団名称で配慮

同総会は十一月十二日午後一時半からの開会礼拝で始まった。主に大阪・兵庫両教区の議員が総会成立の構成について意見を述べた。これはこの五月に開かれた大阪教区総会での教団総会議員選挙で「二つの立場」が「教」を集めて独占する結果になったことに憂慮を表明したもので、同様に宇都宮佳東氏(兵庫教区総会議長)も意見を述べた。



後宮・日キ教団総会議長(右)と握手する商正宗・台湾基督長老教会議長(中央)。左は中嶋正昭総幹事



キリスト新聞社  
東京都新宿区新小川町9-1  
郵便番号 162  
電話(03)260-6445(代番)  
振替口座・東京8-196016  
支社 545 大阪市阿倍野区殿前町  
1-5-13-34G・電話(06)624-7394

定価130円  
半年分 3,960円  
1年分 7,450円  
送料(平共) 海外半年 4,750円  
1年 9,500円

本紙標語  
平和憲法を護れ  
再軍備絶対反対

議され、東京教区の総会未開催問題では大宮博氏(阿佐ヶ谷教会牧師)が経過報告した。これには「なぜキリスト教者援会側から意見を求めないのか」、「未開催問題は負担金未納による財政問題とも関連しており、教団運営上の問題として、未開催教区の諸教会と教団とを結ぶパイプを設定すべきだ」などの意見が出た。結局、「東京教区総会開催を認めない」との審議は常議員会に付託された。

十三日午後からは、沖繩キリスト教団との合同の承認と、台湾基督長老教会との協約の承認が審議された。この日の教団創立記念日に関する決議は、現行の創立記念日を継続することは、合同の日を転換するものではない、「議案中の『沖繩の教会を切り捨てた』などの表現は適切でなく、本土復帰する以前も問安使を派遣していた」との意見に対し、「なぜ現行の

「賀川問題」も上程  
日キ教団第二十三回総会に、故賀川豊彦氏が持つ差別性を問題とする次のような建議が提出された。  
【建議】日本基督教団は故

賀川豊彦氏及び氏に關係する諸文書を再検討し、次のことに對する具體的施策を講ずること建議する。  
①諸文書の中に含まれる部落差別をはじめ、諸差別意識の真態を明らかにすることの



教師検定問題で発言する山本聖氏(右)と松下昇氏(左)

【関西支社】三十三教会のうち二十七教会が離脱した日本自由メソヂスト教団は、さる七月二十一日、十四年ぶ

創立20周年  
記念聖書  
コンコルダンス付  
新改訳聖書  
日本聖書刊行会

「新しい」  
エキュメニズムは新段階  
石田順朗(LWF・神)総主事が報告  
その後、内藤協氏(鎌倉恩寵教会牧師)が合格者承認を来年一月の常議員会に委ねる提案をして、承認された。  
教団の新役員  
三役は再選  
今総会で選出された三役、新常議員は次のとおり(敬称略)  
議長―後宮俊夫、副議長―岸本羊一、書記―辻健(いずれも再選)。教職常議員―荒谷恒吉、岩井健作、宇都宮佳果

# 合格者承認できず

## 教師検定問題で激論続く

「一九八四年秋季教師検定試験 合格者承認に関する件」に関する議論が、教団検定問題で初日、結論としては、合格者承認は常議員会付託という提案を二九名中一三四名で可決、一応の結論を見た。第一回常議員会は休会。

や選挙等を折りこみ、議事進行に努めたが議論はしばしば立往生した。結論としては、合格者承認は常議員会付託という提案を二九名中一三四名で可決、一応の結論を見た。第一回常議員会は休会。

の判定等に議論が集中した。高橋和彦、山本聖、戒能信生、久保田文貞の各議員、菅沢邦明議員らが主に発言した。①今回の試験は公平さを欠く。②京都会場での出来事を東京の受験者らに隠す。③判定を密書で決定したことは秘密裡に教師を侮辱したことになる。④「不測の事態」でなく、当然予断し得たこと、しかも二年間以上も「教師検定問題」共同受難者として重荷を背負ってきた「共同受難者」が「介入」したと報告、報道したことは遺憾である。⑤「書面決議」という前代未聞

の判定は根拠を後に残すことになる。⑥私人と公人を使いわけ検定を進めている等々を主張。検定委員会は経過報告をするなかでこれらに答え、合格者承認の判断を議場にゆだねた。⑦レポート切りかえはやむを得なからず、⑧知らせなかったのだから、⑨情報確認し、この対応におかれ、考えも及ばなかった。⑩公平を保つために問題の一部を重く出題している。⑪「書面決議」も正検定委員長の健康上の理由と、教団総会が迫っていたことの中で「やむを得なかった」等々。

「社会活動基本方針」で主旨説明をする桑原重夫議員

# 重要議案の整理・検討を開始

## 東京教区問題は放置せず

「教団総会の『重要議案』を整理し、検討を開始する件」を二日目の朝、約一時間かけて審議し、賛成多数で可決した。これに先立ち、先に田中道宣議員らによって提案されていた「教団総会の重要議案の調査、研究開始に関する件」は提案者によって取り下げられた。同議案は第17回教団総会以来、審議を留保され、継続審議となっている。教団・教規に関する「重要議案」を整理し、その検討を開始することを常議員会に委託する、というものである。

今日、継続審議となっている「教団・教規に関する重要議案」とは約十九件もあり、内容的に重なるもの、時期的に古くなり、表現も古くなっているものもある。それを形を整えて、新しい議案とするのである。しかもそれを職権で行うのではなく、提案者と相談して行うもの

山積しており、どちらに力点を置くのかを問う意見もあった。これに対し後議員長は東京教区問題を放置することはないと明言、また全議員が揃ったなかで教団・教規改正に動き出せるよう、今から「重要議案」を整理し、検討を開始していきたいと述べた。

「社会活動基本方針」の再検討で宣教委が中間報告

# 差別文書を再検討

## 教団の差別体質を受けとめ

差別問題に関する議論の一つは、教団は故川野豊氏に關する差別文書を再検討し、具体的施策を講ぜよとする建議の常議員会付託を決定したこと。これは教団の「差別体質」を深刻に受けとめる問題提起として、今後の取り扱いが注目される。

建議の内容は、①諸文書の中に含まれる部落差別をはじめ、諸差別意識の実体を明らかにすること。②賀川氏と同質の差別体質を教団内に放置し、また助長してきたことを徹底的に反省し、これの除去及び自己変革を努めること。③以上によって教団の新しい姿勢を確立し、教団

の使命を果たすことである。これは別に出版局発行「説教者のための聖書講義」にみる「差別体質」は、前総会で指摘論議されてきたが、本総会でもさらに出版局の姿勢を特に障害者差別問題に端を発した出版局の姿勢」についての公開話し合いを不満足とし、さらに鋭い指摘があり、主として出版局長代行との間で鋭いやりとりがあった。

報告として「まとめと報告」が提出された。報告に立った桑原重夫議員は「まとめと報告」に

# 「東京教区問題」進展せず

## 六支区長会の動き見守る

東京教区 個別の話し合いの内容を語り、現状を踏まえて常置委員としてまとまった形では何とも言えない。どうかを模索中であると述べ、その困難さと希望を説明した。続いて大宮議員は、さる七月十三日に開かれた「東京教区教会協議会」以後の六支区長会の動きを報告。「同協議会」で出された論点を九項目に整理し、それにより各支区に常置委員を任命委員会に問い合わせ、同意が得られれば来月の早い時期に二回目の協議会を開きたいと述べた。これに対して小田原議員は六支区長会の公的性質を問ひ、横田議員は今

この他、二日目の朝の「重要議案」の審議との関連でも論議され、太田一男議員は東京教区が總會を開けなくとも、教団としての連帯を強めていける方策を考へるべきだと説いた。また戸田伊助議員は總會開催の権限について語り、権限を持つ者は總會を開く権限を持つと同時に、開かない権限も持っているのだという自覚を持ち、命をかけて努力してほしい、と述べた。しかし、総じて教団としては六支区長の動きを見守る以外になく、「常置委員の誤りを認める件」

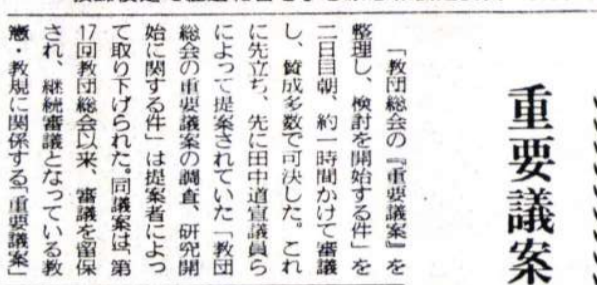


六支区長会の動きを説明する大宮議員(11・12)

問題の焦点は、出版局が先ず自己研修や謝罪文の掲載などによって、差別体質を取り組む姿勢を示そうとしているのに対して、それでは不十分であり、今ある差別をなくすためにどうすべきかを考えるべきだとする意見とが交差し、問題は持ち越された。

十二教会より 来賓が挨拶

十二教会から十四名の来賓が、教団総会に出席し、第二日目の朝、各教会代表の挨拶があった。以前と違い、今回は中座して帰る来賓は少なく、ほとんどの方が三日間通して出席し、總會の論議に熱心に耳を傾けた。また、海外十四教会からの



教師検定で経過報告をする原忠和検定委員(11月13日朝)

「重要議案」の整理・検討を開始

差別文書を再検討

社会活動基本方針の再検討

来賓が挨拶

可決された議案

67号 金大中氏の安全に関する決議  
68号 米国のニカラグア軍略撤回要請に関する件  
常議員会に付託された議案・建議  
6号 教団総会常任委員選出  
8号 宗教法人「日基督教団」役員選出  
9号 出版局理事推薦  
10号 出版局長推薦承認  
11号 年金局理事等推薦承認  
12号 常設委員・常設専門の選出  
13号 宣教研究所委員選出  
14号 各特設委員選出  
15号 日基督教団会堂共済組員推薦  
16号 日基督教団会堂共済組員推薦  
17号 内外協力会代議員選出  
18号 NCC代議員選出  
19号 教団関係学校 関係理事推薦  
20号 八四年秋季教師検定合格者承認に関する件  
32号 「日基督教団と沖縄キト教団との合同のうえに」と実質化の推進に関する「基教団信仰告白」の再検討開始する件  
33号 「東京教区総会開命並びに東京教区問題に関する東京教区常置委員会の設置を認める件」